

# 神さまは見てはる

ついに我が家もデジタルテレビを購入することになった。

私は、お目当てのテレビを1円でも安く手に入れようと、何軒かの電器店を見て回った。

そして、最後に駅前の家電量販店へたどり着いた。

この店では、お目当てのテレビは、12万5000円。先ほどのぞいたA店は12万4800円だった。その時、ある張り紙が私の目にとまった。

「どの店よりも安くします。もし、他店より1円でも高い場合は店員にお申し付けください」

私は近くにいた若い店員にこう言った。

「このテレビ、A店は12万3000円でしたよ」

「えっ！本当ですか？」

若い店員は、びっくりしている。

「おたくも12万3000円にしてよ」

店員は焦りながら電卓をはじいている。

「うーん、わかりました。じゃあ、うちは12万3000円にこれを付けさせてもらいます！」

差し出したのは、携帯型の小さな扇風機。

「よし！じゃあ買うよ」

「ありがとうございます！」

「言ってみるものだな・・・」

私は、してやったりという気持ちでニンマリしながら店を出た。

しかし、電車に乗って帰る途中、なぜか心がモヤモヤしはじめたのだ。

私が幼い頃こんなことがあった。

その日、祖母は出先の近くの八百屋で野菜を買い、帰路についた。

しかし、帰宅してから、おつりを多くもらっていたことに気付き、

わざわざまた電車に乗って、その八百屋におつりを返しに行ったのだ。

おつりを返して帰宅した祖母は私にこんな話をしてくれた。

私「なんでわざわざ返しに行ったん？」

2回も電車代使ったら、おばあちゃんが損するやん」

祖母「そやけど後でお金が合わなんだら、

私「ふーん。でもお店の人が間違えたんやから

そのまもらっといたらよかったのに・・・」

祖母「そやけど、何回財布見ても、お金が増えてんねやもん。

神さまが『お店の人が困るから返しに行つてあげなさい』

いうておばあちゃんに気付かしてくれはったんやわ」

私「けど、お店の人は気付いてへんやんか」

祖母「あんなあ、お店の人は気付かんでも

神さまは見てはるんやで」

「正しいことしとつたら、後で神さまが帳尻合わせてくれはるねん。

そやからあんたも神さまだけは放したらあかんよ！

おばあちゃん、そのことだけはずっとお願いしとるで」

電車の中で私は、亡き祖母の言葉を思い出していた。

「ふう〜」大きく息を吐くと、心のモヤモヤも一緒に出て行ったような気がした。

そして私は、次の駅で降りた。

「神さまごめんなさい」。ホームに降りた私は空を見上げてペコリと頭を下げ、店に戻った。

「人よりよい目がしたい」「自分だけが幸せになればいい」という思いは、誰もが少なからず持っているものです。

しかし、そういう思いだけにとらわれすぎると、争いや人間関係のいざこざなど様々な問題を引き起こし、自分自身が悩み苦しんでしまうこともあるでしょう。

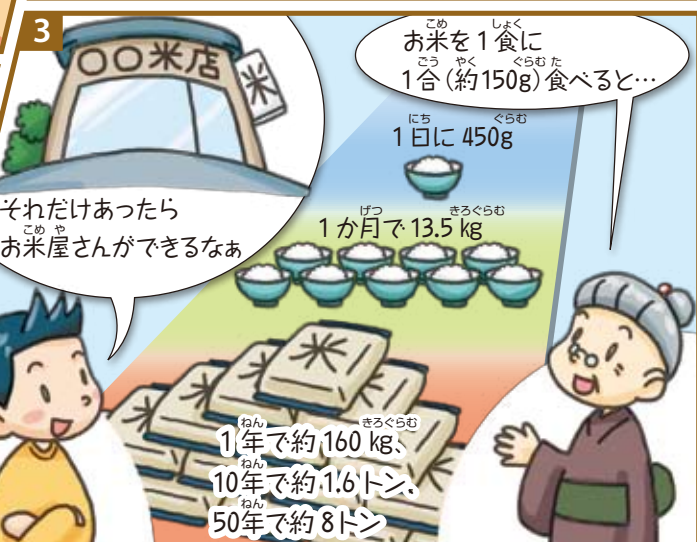
自分だけの助かりを願う方ではなく、自分も相手も助かっていくあり方を求めていくことを、神様はお喜びくださいます。





おし げきじょう  
**み教え劇場** (おばあちゃん編) **「食前訓」**  
 しょくぜんくん

金光教 ホームページのご案内



金光教のホームページでは、金光教の案内をはじめ、教団の活動や行事等を、随時配信しております。是非ご覧ください。

Webで  
 チェック! KONKOKYO 検索

わたし になげん てんち めく いただ いのち  
 私たち人間は、天地の恵みを頂いて命をつないでいます。  
 「お金を出して買ったのだから自由にしている」という人がいるかもしれませんが、水や空気、光などがなくては食物は育ちません。  
 てんち かね ほら い  
 天地はお金を払えとは言いませんが、天地のお働きがあつての自分であるというお礼の心を忘れなないようにしたいものです。